

出藍の誉れ

<学校の教育目標>

自立共生

自ら 仲間と共に よりよく

夏休みの取組からすばらしい 人権作文の応募がありました

夏休みにいろいろな作品の応募がありました。その中で、1年生が取り組んだ人権作文にとっても素晴らしいものがありましたので、紹介をします。

人権と自分らしさ

1年3組 神田 陽彩

「人権ってなんだろう？」私が思っていることが、そのまま題名になっていた。アジア・太平洋人権情報センターが発行している本である。その本の中には、人権と思いやりとの違い、人権の役割、人権の種類、人権を守る仕組み、差別を生み出す原因などが書かれていた。特に印象に残ったのが、「〇〇らしさ」というキーワードだ。生活の中で「中学生らしく」とか「男らしく」「女らしく」ということをよく聞く。これらの「らしさ」は、他人に強制され、「らしさ」でしぼられているというのである。しかし、本来は自分が決める「自分らしさ」が大切である。みんながそれぞれの「自分らしさ」を実現できるように、「人権」が守ってくれている。みんなが「自分らしさ」をかがやかせる世界になるとすばらしいなと思う。

私の生活とつなげて考えてみると、みんなの「自分らしさ」がかがやいているのは、授業でそれぞれの意見を発言する場面が思い浮かぶ。自分の考えたことを交流するときは、それぞれの「自分らしさ」がとても発揮されていると感じる。また、いじめを起こさない取り組みや解決するための取組は、「自分らしさ」を実現するための取組であると考えることができる。一人一人の「自分らしさ」を大切に合うための取り組みである。反対に、いじめというものは、それぞれの「自分らしさ」を踏みにじる行為であるといえる。

私は、学校へ行くのが大好きだ。授業も部活も、仲間と一緒に活動するのが好きである。「夏休みが来るのがいやだ。」「早く夏休みが終わって。」と思う。しかし、私とは反対に、「夏休みが終わるのがこわい。」「学校へ行くのが不安。」

などという意識で、さみしさや悲しさを感じながら過ごしている中学生がいるかもしれない。

私の通う中学校には、月に一度、「いじめを見逃さない日」というものがある。全校の仲間とよりよく暮らしていくにはどうしたらよいか、いじめを防ぐにはどうしたらよいか、月ごとに着目するテーマを決め、意見を交流する。前は、いじめが起きていることを知っていても見て見ぬふりをしてしまう「傍観者」の意識や、自分事として、問題を解決するために何ができるのかについて話し合った。いじめられている子の「自分らしさ」を考えたとき、見て見ぬふりをせず、自分にできることはないかと、自分事にして考えることが大切である。

いじめについて考える中で、そもそも、どうしていじめが起きているのか疑問に思った。その原因は、人の差別意識にある。自分と他人、自分たちの集団とは別の集団など、他との違いをよくないものだととらえる意識にあることがわかった。女性、外国人、障がい者などに関する人権問題も、この差別意識が基になっている。いろいろな状況の人たちが、「自分らしさ」を発揮して暮らせる社会に近づこうとしていても、なかなかそうならない現実もあると知った。違いをよくないものだととらえ、「〇〇な人たちは、□□に違いない。」という思い込みや固定観念に基づいて、「だから△△されても仕方ない。」とか、「できるだけ違う集団にいたい。」という意識になるのだそうだ。「〇〇だから□□。」と決めつけたり、人が言っていることに流されたりせず、それぞれの「自分らしさ」を大切にして一人の人間としてみる必要がある。

私には、大切な友達がたくさんいる。スポーツが得意で、とても気が利く子。好きなことが同じで気が合う子。明るい生活で一緒にいるだけで楽しい子。なんでも相談に乗ってくれる優しい子。どの子も一人一人に「自分らしさ」があってすてきで、大切にしたいと思う。また、私の友達は私のことを、「しっかりしていて頼りになるね。」「やさしいね。」と言ってくれて、

仲良くしてくれる。大切にしてくれるから、大切にしたいと思う。私の「自分らしさ」は、誰とでも仲良くできるところ、友達の良さを見つけられるところ、頼まれたことは最後までやりとげるところだと思う。これから、この「自分らしさ」をかがやかせていきたい。

「人権」を守るということは、その人の「自分らしさ」を、その人の良さだととらえて、互いに大切にすることだ。みんなでみんなの「自分らしさ」を大切に社会にしていきませんか？

この作文を読んだときに、改めて「自分らしさ」って何だろうかと、ふと自分を見つめ直すきっかけになりました。そして、「私の自分らしさは、〇〇なんだ」と言える自分になりたいと思いました。一人一人の「自分らしさ」を輝かせることの藍川中学校をめざしていきたいですね。

芥見フェスティバルボランティアの お礼の手紙をいただきました

芥見フェスティバル実行委員会委員長の小谷久文さんから、ボランティア参加のお礼の手紙をいただきましたので、紹介します。

芥見青少年育成市民会議会長

小谷 久文さん

「芥見フェスティバル 2024」開催直前は猛暑が続き、熱中症や暑さ対策など心配事が多々ありました。また、物価高騰、コロナ感染など先の見えない不安な状況の中、各種団体の方々と会議を重ね、無理なく、出来ることを精一杯やりましよう、話し合いながら進めてきました。

当日は朝からお天気も良く、藍川中学校の生徒さんの積極的なお手伝いで、スムーズに準備が進み、予定よりも早く終わりました。先生方も多く参加していただき、ありがとうございました。

午後2時からの藍川中の合唱は素晴らしく、先日の反省会で「とても素晴らしくて感動しました」というご意見がありました。続く子どもフェスティバル、「中学生の丁寧な教え方に小さな子も耳を傾け、一緒につくっている姿に感動。伝統として続けてほしい姿です。」と地域の方からお褒めの言葉をいただきました。翌日の片付け、少し人数が少なかったとは思いますが、参加していた生徒さんは一生懸命

仕事をしてくれました。反省会でも「中学生の力は大きかった！」と多数の団体からの意見がありました。反省点もありますが、藍川中の生徒さんには続けてほしいと思います。

「中学生の力は大きかった！」というご意見は、本当にうれしい言葉です。それほど、地域の方は藍川中のみんなの力を頼りにされており、その思いに答えてボランティアに参加する生徒が多数いました。これからも地域からボランティアの募集があると思いますが、積極的に参加してほしいと思います。

